紙・包装資材
保険代理業・不動産
株式会社 赤澤紙業
仙台支店／〒984-0015 仙台市若林区卸町2丁目12-11
TEL.022-235-4251㈹ FAX.022-232-4256

2020
10月16日
金曜日

建設新聞

発行所　建設新聞社
本社　仙台市青葉区春日町7－5　TEL022(221)4601(大代)
青森支局　青森市古川1丁目21－11　TEL017(722)8631㈹
岩手支局　盛岡市菜園1丁目3－6　TEL019(651)8045㈹
秋田支局　秋田市山王4丁目3－10　TEL018(862)6921㈹
山形支局　山形市松波1丁目10－16　TEL023(641)2800㈹
福島支局　福島市宮下町17－20　TEL024(534)0138㈹
東京支局　東京都江東区豊洲1－3－1　TEL03(5547)1367

construction 建設ニュース

福島が54・4％の大幅増

請負額は15・6％増の1.4兆円

東北6県 20年度上半期の保証取扱高

東日本保証 宮城支店

東日本建設業保証宮城支店は、東北6県における2020年度上半期（4月～9月）の保証取扱高をまとめた。件数は前年同期と比べ6・3㌫増の1万7779件、請負額は15・6㌫増の1兆3858億7600万円となった。県別の請負額では、秋田と山形を除く4県が増加し、特に福島が5割以上伸びた。

請負額を発注機関別に見ると、国は66・5㌫増の4171億3300万円、独立行政法人等は11・0㌫減の422億9600万円、県は13・0㌫増の4496億7200万円、市町村は9・1㌫減の4084億5400万円、地方公社は20・7㌫減の43億8900万円、その他は34・1㌫増の639億2900万円だった。

県別では、福島が54・4㌫増の5046億8600万円で大幅増となったほか、岩手が7・5㌫増の2414億5100万円、青森が1・0㌫増の1312億4200万円、宮城が0・6㌫増の2746億5600万円。これに対し、山形が8・1㌫減の1181億6300万円、秋田が0・2㌫減の1156億7500万円と減少した。

請負額が5割増 9月単月の保証高

また、東北6県での9月単月の保証取扱高を見ると、件数は8・1㌫増の3394件、請負額は56・5㌫増の2612億0600万円と大幅に増加した。

県別の請負額は、福島が143・1㌫増の1246億6000万円で大幅に伸びたほか、秋田が40・2㌫増の206億0500万円、宮城が28・5㌫増の473億1000万円、岩手が12・0㌫増の273億0600万円、青森が11・1㌫増の236億5000万円と2桁増となった。一方、山形は4・4㌫減の176億7300万円と減少した。

20年度上期の県別保証取扱高　（単位：百万円）

区分	県別	青森	岩手	秋田	山形	宮城	福島	合計
国	件数	174	296	250	293	201	256	1,470
	請負金額	16,659	66,993	26,937	26,100	36,981	243,460	417,133
独立行政法人等	件数	15	28	22	19	43	30	157
	請負金額	1,425	5,988	3,576	3,336	12,962	15,006	42,296
県	件数	1,471	1,020	945	694	1,116	1,682	6,928
	請負金額	54,751	101,635	43,450	37,203	85,834	126,797	449,672
市町村	件数	926	1,498	658	1,114	2,216	2,359	8,771
	請負金額	47,217	57,825	35,351	41,274	116,671	110,113	408,454
地方公社等	件数	6	5	3	7	24	1	46
	請負金額	262	977	209	158	2,771	9	4,389
その他	件数	128	81	7	63	97	49	425
	請負金額	10,926	8,029	6,149	10,089	19,435	9,299	63,929
合計	件数	2,720	2,928	1,885	2,190	3,697	4,377	17,797
	請負金額	131,242	241,451	115,675	118,163	274,656	504,686	1,385,876
同前年期度	件数	2,549	2,702	1,834	2,346	3,414	3,896	16,741
	請負金額	129,900	224,630	115,963	128,512	272,920	326,781	1,198,710
同前年期比度	件数	6.7%	8.4%	2.8%	－6.6%	8.3%	12.3%	6.3%
	請負金額	1.0%	7.5%	－0.2%	－8.1%	0.6%	54.4%	15.6%

青森県平川市

機能分散解消へ 新庁舎が着工

施工＝清水建設

鎌入れする古谷代表

青森県平川市の新役場庁舎建設工事が着工を迎え、14日に同市柏木町藤山地内の現地で安全祈願祭が行われた。

新庁舎は、既存庁舎が老朽化していることや、町村合併によって市内複数の分庁舎・支所に機能が分散しているという課題を解消するために整備。既存庁舎東側に隣接する敷地2万2905平方㍍に、S造4階建て（免震構造）、延べ8104・35平方㍍の庁舎棟と、S造2階建て、延べ1759・56平方㍍の車庫棟を建設する。NASCA・八洲建築設計事務所・構建築設計事務所JVが実施設計を担当。清水建設が設備一括で施工する。工期は2022年7月31日まで。

式典には、関係者22人が出席。NASCA・八洲建築設計事務所・構建築設計事務所JVを代表し、NASCAの古谷誠章代表取締役が鎌入れ、平川市の長尾忠行市長と福士稔平川市議会議長が鍬入れ、清水建設東北支店の清水康次郎執行役員支店長が鋤入れし、工事の安全を祈願した。

長尾市長は「ユニバーサルデザインに基づいた市民にとって利用しやすい庁舎とするほか、大規模災害時には防災拠点にもなる。22年7月の完成を目指し、多くの関係者の尽力をお願いする」とあいさつ。また、古谷代表取締役は「新庁舎が、日ごろから市民の心安らぐ場所として、賑やかに集まって楽しむための広場となることを願う」と述べた。清水執行役員支店長は「新庁舎は、免震構造やZEBの技術などを取り入れるので、匠の力を集結し、無災害・無事故で進めていきたい」と力を込めた。

鍬入れする長尾市長（右）と福士議長

鋤入れする清水支店長

新庁舎イメージパース

設備業プラットフォーム

弘栄ドリームワークス

双方向ネットワークでビジネスチャンス拡大へ

仙台でキックオフイベント

弘栄ドリームワークス（本社・山形市　菅原康弘代表取締役社長）の設備業プラットフォーム「何とかしたいを何とかします」サービス開始に伴うキックオフイベントが14日、仙台市のホテルメトロポリタン仙台で開かれた。

同社の取り組みに賛同・協力するパートナー企業の代表などが参加する中、弘栄ドリームワークスの船橋吾一会長は「今後、経済がシュリンクしていく中、設備会社として発展を続けるにはオンリーワンの商材を用いて他社との差別化を図らなければならない。そうした時に、ドローン技術と出会い、設備業が扱う配管にこの技術を生かそうと考え、配管を移動するロボット『配管くん』が完成した」とプラットフォーム立ち上げの背景などを説明。その上で「プラットフォームはオンリーワンの商材を作り、カタログにまとめてお客さまに提案し受注の幅を広げるものだ。こうした考えに賛同いただき、60社を超えるパートナーが集まった。今後も皆さんと手を取り合い、パートナー同士で双方向のネットワークを築いていきたい」とあいさつした。

続いて、菅原社長がプラットフォームの概要などを説明した後、パートナー企業への認定書の授与などが行われた。

設備プラットフォームは①ドリームワークス社を含む設備業向け商材を提供するベンダー②商材を活用するパートナー③パートナーとベンダーを取り持つ運用システム―の3つで構成。それぞれの商材と情報を共有・活用して、ユーザーに設備のメンテナンスやリニューアルの提案を行うことで、新たなビジネスチャンスを広げようというもの。

このうち、商材ではパイプ探査ロボット「配管くん」やAI漏水診断システム「音とりくん」、エアコンレンタルサービス、地下水位低下工法「ウエルポイント工法」などを用意。中でも同社が開発した配管くんは、配管の内部を移動しながら位置の計測と内部映像の撮影を行い、診断と図面作成を支援するもので、設備のメンテナンスやリニューアル工事の提案を支援する。

プラットフォーム「何とかしたいを何とかします」サービス開始に伴うキックオフイベントが14日、仙台市のホテルメトロポリタン仙台で開かれた

あいさつする船橋会長

パートナー企業に認定証を授与

成瀬ダム現場に「DX LABO」オープン

鹿島 〝土木の未来〟を体感

鹿島（押味至一代表取締役社長）は秋田県東成瀬村の成瀬ダム工事現場内に、土木の未来を体感できる施設「KAJIMA DX LABO」を開設し14日、現地でオープニングセレモニーを開催した。ラボではAR・VRを活用し、同社が考える〝土木の未来〟や建設機械の自動運転による新システム「A4CSEL（クワッドアクセル）」などを体感・学習することができる。

クワッドアクセルは建設機械の自動運転を核とした次世代建設生産システム。同社はこの開発・実用化により、これまで労働集約型産業の代表とされる建設業の生産性向上、「建設現場の工場化」を目指している。

成瀬ダム堤体打設工事（施工＝鹿島・前田建設工業・竹中土木JV）では、ことし7月のCSG打設開始からクワッドアクセルを採用。当日は無人の振動ローラー5台による締固めと無人ブルドーザ2台、有人ブルドーザ1台による敷均しが併行して進められていた。最盛期には最大23台の自動化重機が稼働する予定だ。

DXラボは堤体打設工事を一望できる右岸側サイトに設けられた。1階のパネルゾーンではタブレット端末を操作しながらジオラマに組み込まれたARやパネルで工事概要など学習し、展望デッキではタブレットをかざすことで成瀬ダムの完成形を確認できる。

また、2階に設けられた管制室ではIT技術者やエンジニアで構成される「ITパイロット」が4人常駐し、自動化重機の施工計画データ作成やデータ送信作業、稼働中の無人重機の監視などを行っている。

式典で鹿島の高田悦久専務執行役員・土木管理本部副本部長は「クワッドアクセルが本格的に実証される超大型ダムで鹿島のDX（デジタルトランスフォーメーション）の方向を示し、建設業がどのように変わっていくのかを皆さんに理解してもらいたい」と開設の趣旨を説明。東北地方整備局成瀬ダム工事事務所の村山英俊所長は「このラボは自動化施工の司令塔で、今までのダム建設のイメージを覆す。ダム建設におけるDXを象徴する」、佐々木哲男東成瀬村村長は「夢のある事業が東成瀬村で始まっていることをうれしく思う。村を訪れる人たちにこのPR館をコースに入れてもらい誘客対策として大いに活用したい」と期待を寄せた。

施設は建設現場内にあるため自由に出入りすることはできず、国土交通省や施工者主催の見学ツアーで活用する予定。

関係者によるテープカット

自動運転重機を監視する管制室

ICT活用した建設技術テーマに

高校生に出前授業

日本機械施工協東北

日本建設機械施工協会（JCMA）東北支部情報化施工技術委員会は、宮城県加美町の佐藤工務店（代表取締役佐藤敦）と協力し、宮城県迫桜高等学校（及川功次郎校長）エンジニアリング土木系列の1年生19人、2年生13人、3年生13人を対象に出前授業を開催した。

出前授業は、宮城県からの依頼を受けて実施したもの。当日は、JCMA情報化施工技術委員会の鈴木勇治委員長が「ICTの必要性と国の取り組み」と題して講義を行い、高齢化社会の中で建設業界の人手不足をいかにICT施工の力で支えていくかを説いた。

この後、大崎市三本木にある佐藤工務店機材センターに場所を移し、▽40㌧ダンプの遠隔操作体験と搭乗▽衛星測位システムローバー測量体験▽ドローン操作体験▽3DMCBH（三次元マシンコントロールバックホウ）の操作体験▽自動追尾トータルステーション測量体験―を学年ごとに分かれて実施した。

参加した3年生の三浦海斗さんは「3DMCBHを実際に触れてすごく興奮した。卒業後は、道路舗装会社へ就職することが決まっており、学校ではできない勉強をさせてもらい良い経験ができた」と話した。

生徒らは体験後に熟練オペレーターの掘削と切土法面整形作業を間近で見学し、運転技術と作業スピードに驚いていた。

大和田弘光工事部長は「学校では見ることができない最新の技術を見て、土木工事の魅力を感じてもらい、将来は建設業界に進んでほしい」と語った。

搭乗体験

土木学会

オフィスワークの働き方

WEBでアンケート調査

土木学会（家田仁会長）の「パンデミック特別検討会オフィスワークの働き方改革検討班」は、学会が7月14日に公表した「COVID―19災禍を踏まえた社会とインフラの転換に関する声明」を受け、オフィスワークの働き方に関するWEBアンケート調査（アンケートのURLは土木広報センターのホーム）を行う。

調査対象は建設コンサルタント、建設会社などでオフィスワークに従事している会員。

コロナ禍の中でのテレワークの経験を踏まえ、個人のワークライフバランスの実現と企業における業務効率性の向上、デジタル社会に適応した土木業界全体の働き方の改革につなげげるための方策を探る。効率性をはじめとした土木技術者のオフィスワーク改善に向けた具体的提言にも反映する。

設問は全部で36問で、回答期限は2020年10月31日。

ユアテック

1位は今野さん（宮城）

第58回技能五輪壮行大会

ユアテック（佐竹勤取締役社長社長執行役員）は11日、第58回技能五輪壮行大会を宮城県富谷市の同社人財育成センターで開いた。11月14日から愛知県で開催される技能五輪全国大会を前に、大会参加選手の技術向上を狙ったもので、出場する7人が技術を競い合い、今野汐音さん（宮城）が1位に輝いた。

壮行大会は、本番と同じ条件での大会を開くことで、参加選手たちの緊張に打ち勝つ強い心を養う機会として企画。また、本年度の技能五輪は、新型コロナウイルス感染症の影響で一般見学が制限されているため、参加選手の家族を招待しての開催とした。

全国大会に参加する7人は、全国大会で課題となる城の形を模した配管、配線、機器配置と動力制御回路の作成といった課題を施工し、「正確性」や作業上の「安全性」などを競い合った。

約5時間に渡る競技の結果、1位に今野汐音さん、2位に斗沢宗玄さん（青森）、3位に山崎和真さん（山形）が選ばれた。

大会終了後、太田良治取締役副社長執行役員営業本部長は「皆さんは、基礎となる技能向上に日々励んできた。その磨き上げた力を発揮できるよう、残り1カ月もさらに研さんしてほしい」と激励した。

また、見学した家族からは「全国大会は見学できないので、競技する姿を見ることができて良かった」といった感想が聞かれた。

HEXEL Works東北支店

「がんばれ89ERS！」チームを応援

ゼビオアリーナ周辺で清掃活動

HEXEL Works東北支店（小野寧親支店長）とプロバスケットチームの仙台89ERSは14日、仙台市の杜の広場公園で清掃ボランティアを行った。

この清掃活動は、同社がスポンサーを務める89ERSがホーム開幕戦を17日に控え、ゼビオアリーナ周辺を清潔に保つことを目的として実施したもの。当日は、社員15人と89ERSスタッフ10人の計25人が参加。トングとごみ袋を手にした参加者は、杜の広場公園のごみ拾いと除草作業を約1時間行った。

作業を終えた参加者は、「ボランティア活動という応援の仕方もあるのだと分かった。ゼビオアリーナは当社施工物件でもあるので、今後も観戦だけでなく、清掃ボランティアなどを行いながら応援していきたい」と話していた。地元スポーツチームと仙台を盛り上げようと、同社では今後も活動を続けていくとしている。